

行政情報

Administrative Information

#01

ザ・シンポジウムみなとin稚内 みなとを核にした市民によるまちづくり 〜最北のみなとまち「稚内」の再生に向けて〜

北海道開発局港湾空港部港湾計画課

平成19年11月27日（火）、ザ・シンポジウムみなと実行委員会主催による「ザ・シンポジウムみなとin稚内」が、稚内全日空ホテルにおいて、約200人の参加者を得て開催されました。

日本最北端の街、稚内市は、三方を海に囲まれて、重要港湾・稚内港を中心に発展してきた港湾都市です。このため、稚内市のまちづくりは、常にみなとがけん引し、みなとを拠点に進められてきたといえるかもしれません。最近では、市民と来訪者の交流の場を提供するための新たな拠点をみなとに形成し、国内・国際交流都市への変貌を図ることにより、宗谷地域の活性化を進めようと呼びかけ始めているところです。

本シンポジウムは、みなとを核にした市民によるまちづくりを展開しようとしている稚内を舞台に、これからのまちづくりの進め方を考えていくもので、石川県七尾市のコンサルタント会社(株)御祓川^{みそぎ}の代表取締役森山奈美氏が川の再生でにぎわいが戻った取り組みについて基調講演。また、パネルディスカッションでは、横田耕一市長や、稚内のみなとを考える女性ネットワーク代表の望南海^{もなみずほ}昂氏、NPO法人あおもりみなとクラブ理事長の渡部正人氏ら5人により、最北港として可能性を秘める稚内港と地域の発展について意見が交わされました。

また、「みなとオアシス『わっかない』」が北海道みなとオアシスの第1号に登録されたことを記念し、登録証の交付式と概要紹介が行われました。

基調講演

小さな港町の大きな挑戦



森山 奈美氏
（株）御祓川代表取締役

七尾市は能登半島の付け根にあり、万葉の時代から港町として栄えた能登の中核都市です。しかし、20年ほど前は活力が失われていました。

「このままではいけない」と1985年、七尾青年会議所の皆さんが6回シリーズで市民大学講座を開き、今後の七尾はどうあるべきかを勉強しました。その中から出てきたキーワードが「みなと」です。

天然の良港「七尾港」を宝と考え、海からまちを再生していく「七尾マリンシティ構想」をつくりました。市民が自立の精神で掲げ、最初に取り組んだフィッシャーメンズワーフ^{*1}の建設が、当時の運輸省の計

^{*1} フィッシャーメンズワーフ：みなとの環境を活用して、新鮮な魚介類・加工品の購入や海の幸を楽しめる飲食店などが立地したにぎわいのある空間です。

画に盛り込まれたことが大きなバネとなりました。

'91年、フィッシャーマンズワーフとしてフェリー埠頭^{ふとう}を市民交流の場にするため、能登食祭市場を開設したところ、年間90万人が訪れるようになりました。この集客力を軸にして、JR七尾駅前再開発などが進み、中心市街地を活性化させるシナリオを描きました。

中心市街地には御祓川が流れ、能登最大の祭礼「青柏祭^{せいぱくさい}」では川沿いに山車が集まります。しかし、当時は生活排水で汚れていました。そのため、川とその境界^{かいがい}の再生のために作ったのが民間のまちづくり会社「御祓川」です。8人が出資し、資本金5千万円で設立しました。

事業は、①川の浄化、②境界のにぎわい創出、③コミュニティ再生の3本柱です。浄化活動は、県や市、大学などと連携して取り組んでいます。にぎわい創出は店づくりです。古い建物を整備し、当社の直営店として工芸品店と飲食店を経営したり、環境に配慮した美容院を誘致するなどしています。コミュニティ再生の仕事では、川づくりNPOの事務局を担当し、「川はともだち」の合い言葉で活動しています。その一つとして、ビオパークで育てたクレソンで作ったケーキを販売しています。代金の一部は基金に寄付され、浄化装置の維持費に使われる仕組みです。

橋の整備も進み、完成した橋でコンサートなどを開催しています。これにより川沿いには市が立つようになり、川が活用されるようになりました。

まちづくりに取り組むには、二つのタイプがあることに気付きました。一つはまちづくり会社型。主体がはっきりし、スピード感のある事業を展開できる反面、リスクも大きい。もう一つはワークショップ型。みんなで楽しむことを重視し、最近はこのタイプが多いですね。

私どもの会社がやってきたことは、人のつながりを作ったこと。以前はまちづくりの担い手は行政中心でしたが、今は自分たちで取り組むことが広まりつつあり、住民が生き生きと暮らすことが、そのまちの価値を高めることになります。

イベントに参加するだけでなく、つくる側にまわれば、まちとのつながりが強くなるでしょう。もっと暮らしやすくなるための将来像を自分たちで描き、地域にあるものを磨いていくのがまちづくりです。

マリンシティ構想と一連の動きがなければ、私は「七尾のまちはいいな」とは思わなかったでしょう。最北の港町・稚内がますます魅力的になるためには、市民が魅力的になること。それが、一番の近道ではないかと思っています。

パネルディスカッション



酒本 稚内のまちづくりワークショップのお手伝いなどをして気付いたのは、熱心に取り組む人が多いことです。人口の減少をマイナスにとらえがちですが、歴史的には同じように人口が停滞していた平安、江戸時代で逆に文化が花開いています。今はまさしくその時代です。行政と市民が連携してこれまでつくられたものをうまく使い、まちづくり、地域づくりに活かしていくべきではないでしょうか。みなとは最大の宝です。これをキーワードにみなとまちづくりの観点でお考えを聞かせてください。



コーディネーター
酒本 宏氏
(株)グランドデザイン
代表取締役



パネリスト
横田 耕一氏
稚内市長

横田 稚内は来年、市政施行とみなとの開港60年の節目を迎えます。今年は宗谷海峡の英語名にもなったフランス探検家ラ・ペルーズが海峡を渡ってから220年であり、また、'08年には間宮林蔵が樺太(サハリン)に渡って200年のメモリアルイヤーも続きます。キーワードは海。道内で初めて、「みなとオアシス^{※2}」の認定も受け、海を発展の起爆剤にした都市再生、新たな稚内の顔をつくっていければと思います。



パネリスト
望南海 昂氏
稚内のみなとを考える
女性ネットワーク代表

望南海 稚内のみなとを考える女性ネットワークは、ポートウォッチングやコンサート、みなとのゴミ拾いなどを行っています。故郷のためにできることはと考えると、女性の視点で活動を始めて5年になります。家庭を持つ女性は外に出るのに家族の理解が必要です。み

※2 みなとオアシス:旅客ターミナル・広場・海浜など「みなと」の施設やスペースを活用した地域交流拠点です。「みなと」を、地域の方々や観光客など多くの人が気軽に立ち寄り交流する憩いの場、いわゆる「オアシス」として活用しようというものです。

などとも無縁のようですが、学びながらみなとのためになることを考えています。コンサートも人づくりも暗中模索の状態ですが、継続しようと思っています。

渡部 NPO法人あおもりみなとクラブは設立して2年になります。人口31万人の青森は半年雪に閉ざされ、青函トンネルで連絡船が廃止され、商業地も空洞化しました。一市民として、みなとのにぎわいを取り戻したい、まちを元気づけたいとの思いで活動を始めました。クラブは、歴史の証として後世に残すために係留されている連絡船八甲田丸の指定管理者になり、子どもたちに初めてペンキ塗りで協力してもらい、また豪華客船の入出港時のセレモニーなどのお手伝いなどもしてもらいました。

中崎 みなとオアシスは全国で33港あり、昨年から本格的に全国に広がり、海鮮市場などが人気です。青森・八戸では日曜日にみなとから中心部まで朝市が立ち、毎週1万人以上の人を訪れます。旧フェリーターミナルのある徳島・小松島港ではフリーマーケットも常設しています。能代港では白神山地を遊漁船で眺めるツアーの社会実験を行いました。交通アクセスの悪い四国・八幡浜には、対岸の大分からフェリーツアーも行いました。インフラも重要ですが、企画、工夫次第で流れが決まっていくのではないかと思います。

酒本 稚内のみなとまちづくりの観点で、面白い発想はありませんか。

渡部 青森のまちづくりの基本理念はコンパクトシティ。市街地の無秩序な拡大抑制と中心市街地の質的充実です。ウォークアブル・タウン、つまり、歩けるまちの創造。観光客の増加が市の活性化につながるとしています。稚内も連携が活発なようですが、もっと一般市民参加の仕組みができれば、まちをこうしたいと思う人が増え、何十年かたってじんわり効いてくるのではないのでしょうか。

中崎 みなとまちづくり活動に携わっている市町村ネットワークの人たちに聞くと、①企画力ある有能なスタッフがない、②投資するくらいの緊張感、スピード感がないと長続きしない、③老朽施設に手を加える支援制度がない、④他地域との連携不足、などの課題が挙げられます。稚内は自治体が港湾管理者で、圧倒

的強みがあります。やる気のある人も多い。それを再認識し、ブランド化の達人に意見を聞き、地場産品をブランド化、幅広く集客してはどうでしょうか。外部の意見を聞くことも大切です。

横田 冬は寒く、ひどいところだな、ではなく、われわれが気付かない良さ、誇れるところを教えてください。オホーツクの紋別や網走のガリンコ、オーロラ号は、実は稚内でやった「流氷をみる船」がきっかけになったものです。ひょっとしたら、大ブランドに育ったかもしれません。利尻富士に沈む夕日を船から見たり、漁り火ツアーができないか。まち歩きなどの環境整備など、もっと個人客にシフトして、滞在型になるまちに変え、それを受け入れるみなと、中心市街地にしていくことが課題です。

望南海 北防波堤ドームでコンサートを開いたのは、有名人を呼んでくるのではなく、撮影の舞台にもなるこの場所で、自分たちの好きな歌を歌い、拍手をもらって楽しもうという市民参加の発想です。自分の住む場所への思いを形にできればと思います。

中崎 観光入り込みが減っているようですが、団塊世代の退職旅行のアンケート調査では、人気の1位がヨーロッパ、2位が北海道でした。新千歳空港に降りて、小樽、利尻、礼文、知床をクルーズ船で回る旅行が好評です。つまり、多くの人が目の前を通るということは、潜在能力が高いということです。北九州では韓国の旅行者が増えています。企画が当たれば、顧客倍増の可能性もあります。新潟もロシア、中国、韓国とのフェリー就航を計画しているようです。

横田 港湾都市による日本海にぎわいネットワークの総会が来年、稚内で開かれます。今年の新潟での総会で、この1、2年で日本海側の港湾都市の物流が13～14%増えていることがわかりましたが、道内はまだまだ。また、稚内の観光客については減少傾向にあります。これを増やすためにはブランド力もあるでしょうが、必要不可欠なインフラ整備を進めてほしい。そういう声を地元として高めてほしいと思います。

北海道みなとオアシス登録証の交付



今、「みなとづくり」と「まちづくり」を連携させた、住民参加型の「みなとまちづくり」という取り組みが全国各地で進められています。「みなとオアシス」はそのようなみなとを中心とした交流拠点や地域に対する愛称で、市町村等からの申請を受け、国土交通省地方整備局長・北海道開発局長が登録し、各種公的支援を講じるもので、全国で33の港が登録されています。

平成19年2月に創設された「北海道みなとオアシス」の第1号に「みなとオアシス『わっかない』」が登録され、山口清一北海道開発局港湾空港部長から横田稚内市長に登録証が手渡されました。

「みなとオアシス『わっかない』」の紹介



金森 勝氏
稚内市建設産業部長

「みなとオアシス『わっかない』」は平成19年4月26日に仮登録され、その後、同運営協議会（稚内港湾振興会、稚内観光協会、稚内商工会議所、稚内のみなとを考える女性ネットワーク、稚内観光物産協会、稚内みなとまちづくり懇談会、東日本海フェリー(株)、副港開発、稚内市）を立ち上げ、数回の協議会を実施して検討を重ねてきました。

その後、事業計画等が具体化したことから、平成19年11月21日に正式に登録されたものです。現在、20年5月の新フェリーターミナルのオープンに合わせた供用開始に向けて検討を進めているところです。

○ 目的・概要

水産のまち、稚内の礎を創った経済の源である「稚内港」において、新たな拠点形成により、市民と来訪者の交流の場を提供し、もっと地域を活性化させるため、「国際・国内フェリーターミナル」や「北防波堤ドーム」等を活用し、市民や離島・周辺地域住民が参加、交流できる賑わいのある事業を展開するとともに、サハリン等との交流を通じた「日ロ友好最先端都市」にふさわしい事業に取り組む。また、みなとオアシスの活動を通じて、市民、来訪者のみなとへの関心を高めるとともに、親しみやすいみなとづくりを進める。

○ 主な施設

国際・国内フェリーターミナル、北防波堤ドーム、しおさいプロムナード、北ふ頭緑地、シーポートプラザ、副港市場、ポートサービスセンター。

○ 主なサービス

国際・国内フェリーターミナルを始めとして、各施設の窓口においてみなとオアシスの案内をするほ

か、各施設に案内板を設置。こういった窓口におけるパンフレット、ポスター掲示や協議会構成員によるHPなどによるPR活動を通じて、買い物、病院、催し物、リサイクルなど、市民・離島民の生活に密着した情報発信やみなとオアシスに関する案内、ロシア語表記などロシア人にも対応した情報提供。

稚内港の玄関口である「国際・国内フェリーターミナル」や歴史的港湾施設である「北防波堤ドーム」、港湾文化交流施設である「シーポートプラザ」、多目的緑地の「北ふ頭緑地」、親水性機能を有した護岸「しおさいプロムナード」等を活用して、市民・観光客に対し交流・レクリエーションスペースを提供。これらのスペースを活用してイベントを開催し、市民等に交流の機会を提供。

主な施設のトイレ、駐車場の提供。

副港市場内波止場横丁において、ロシア料理やラーメンなど稚内の特性を活かした食を提供したり、市民などが普段から利用しやすい飲食店による食を提供。

国内フェリーターミナル内においてイタリアンレストラン、和風レストラン、喫茶店、コンビニ機能の物販施設を設置。ポートサービスセンターにおいて、シャワー、コインランドリーを提供。

国際・国内フェリーターミナル、JR稚内駅、バス停留所により良好なアクセシビリティ^{※3}を提供。クルーズ船に関わる情報提供やクルーズ船寄港時のイベントの開催。

○ 運営体制

「みなとオアシス『わっかない』」運営協議会が運営。

○ 供用開始

平成20年5月（予定）



※3 アクセシビリティ (accessibility) : 利便性。交通手段への到達容易度。ある地点や施設への到達容易度。